

令和7年度

事業計画

社会福祉法人 幸生福祉会

理 念

人と人との出会い、心の交流をとおして生きがいを見つけ、活力ある日々をその人らしい生き方で、安心して共に暮らせる笑顔が溢れる施設を目指します。

基 本 方 針

高齢化が進み高齢者世帯や独居世帯が増加する中で、利用者が楽しみや生きがいをもって生活が送れる環境を大切に、限られた時間の中で人々がお互いを支え合い、生きがいを感じ笑顔が絶えない空間で、心身共に快適で意欲増進に繋がる生活の場を提供する。

事 業 計 画

(1)経営基盤

地域の高齢者福祉サービス拠点として、介護保険サービスの利用を主体とした事業所を経営の軸に、行政改革や制度改正による社会情勢の傾向を見極め、地域の高齢者ニーズに応じた中長期的な計画を視野に入れて、人材や安定した財務状況を確保し活動する。

(2)事業運営

介護保険制度での事業を主体に、利用者に必要な日常生活支援をはじめ、利用者の特性に配慮した生活習慣を軸に、心身の安定や安全面に配慮した環境を整備し、楽しみや生きがいを感じられる利用者主体の視点で、寄り添った質の高いサービスを提供する。

(3)設備管理

物価高騰による月々の経費削減に努め、経年劣化が進み設備更新が必要な部分については、将来を見据えて業務の効率化に繋がるデジタル化を踏まえ総合的に判断し、日常業務に支障をきたさないよう、設備機器の保守管理や建物の定期的な点検を実施する。

(4)人材育成

知識の習得や繰り返し学ぶ機会として、施設内研修や勉強会を定期的 to 実施することで個々の意識改革を図り、他部署と関わる委員会や会議での情報共有や意見交換で、色々な考え方を学ぶことでスキルアップを図り、次世代の職員育成や能力開発に取り組む。

(5)地域活動

地域包括支援センターや関係機関との連携を図り、高齢者世帯や独居生活における心身の状況を踏まえた地域福祉サービスの提案や地域のインフォーマルサービス等の情報を発信し、住み慣れた場所で自分らしい生活が、安全で安心して送れるように支援する。

特別養護老人ホーム 九十九園 (介護老人福祉施設)

ショートステイ九十九園（短期入所生活介護）

- 1 利用定員 特別養護老人ホーム 50 名
ショートステイ 10 名
- 2 職員定数 33 名 施設長、生活相談員、介護職員、看護職員、
介護支援専門員、管理栄養士、医師(嘱託)
- 3 事業運営
- (1)利用者に必要な日常生活支援、健康管理及び機能訓練等を行う事により、
利用者の有する能力に応じて、自立した日常生活が営めるよう、介護職員
を中心に、多職種間の連携を図り、利用者主体を考えた支援に努める。
- (2)住み慣れた在宅での生活が続けられるよう、利用者の生活習慣を大切に、
心身共に快適な生活の場として過ごせる環境を提供する。
- 4 基本計画
- (1)日常的に楽しみを感じたり、気分転換ができるような活動や行事等を充実し、
利用者の状況に応じて楽しみのある笑顔で過ごせる企画を実施する。
- (2)利用者主体の考え方を培い、利用者のケアを行っていく上でも臨機応変な
対応ができるように、職員一人ひとりが責任を持って丁寧な対応を継続する。
- 5 基本姿勢
- (1)日々のレクリエーションや行事以外の空いた時間帯でも、利用者とのコミュニ
ケーションを大切にして、その人らしく過ごせる環境作りに努める。
- (2)他職種の職員と連携を密にし、利用者に関わりを持つ時間を増やし、短時間
でも楽しみの時間が持てる居心地の良い安楽な空間を大切に支援する。
- 6 資質向上
- ① 日々のOJTを意識して振り返りを行う習慣をもち、自分が行った介護につい
て根拠を持った介護が実践できるように、助言や指導を日常的に実施する。
- ② 担当者のみで企画を進めるのではなく、全体で物事に取り組む意識を持って
利用者の状態に応じて楽しめる企画を進め、活気ある現場の雰囲気を作る。
- ③ 認知症の進行による失認や失行、加齢による摂食嚥下能力の低下がみられ
る利用者の情報を多職種で共有し、幅広いケースの早期発見に繋げていく。
- ④ 施設内研修や勉強会を計画的に実施し、基本的な接遇や介護に関する知
識の習得を促し、繰り返し学ぶ機会を作ることで職員個々の意識改革を図る。
- ⑤ 他部署職員と関わる各委員会や各会議で、情報共有や意見交換等の様々
な考え方を学ぶことでスキルアップを図り、多方面の視点からの的確な判断を
下せる職員を育成する。

ケアハウス九十九園（軽費老人ホーム）

- 1 利用定員 30 名
- 2 職員定数 4 名 施設長、生活相談員、介護職員
- 3 事業運営
高齢者の特性に配慮した日常生活に必要な住居を提供し、談話スペースを設けた場所での交流を通じて、利用者が安心して楽しく自立した生活が営めるように努める。
- 4 基本計画
利用者の状態に合わせた介護サービス利用への提案を継続し、日々の生活から状態変化に伴う助言や意欲的な日常生活が送れるように支援する。
- 5 基本姿勢
利用者との関わりにより、日々の状態観察や入居者間でのトラブルの把握に努めて信頼関係を築き、一人ひとりに寄り添い心身の安定に努める。
- 6 資質向上
 - ① 高齢に伴うADLの低下を踏まえて家族や介護支援専門員との連携を図り、介護サービスの利用を含めた支援を行いQOLの向上に努める。
 - ② 認知、精神面による理解力の低下や思わぬ行動による他者への不信感を未然に回避して、心穏やかな生活が送れるように支援する。

デイサービスセンター 九十九園（通所介護）

- 1 利用定員 50 名
- 2 職員定数 13 名 管理者、生活相談員、介護職員、看護職員
- 3 事業運営
在宅での生活を中心とする高齢者が、施設に通うことで生活の維持や自立を助長し、社会的孤立感の解消を図り、自己の楽しみや交流を深める。
- 4 基本計画
基本的なサービスを軸に、利用者のニーズに応じた流れを考え、現体制で安全に実施できる活動内容である事を前提に、可能な事には積極的に取り組み、他者交流の活性化を図ることで利用者の満足度を高める。
- 5 基本姿勢
一日の流れを把握し、少しでも職員と利用者の関わりが持てる時間を捻出し、利用者の興味や意欲増進に繋がる活動を念頭に置いて、職員と利用者が共に楽しみ作りができるように取り組む質の高いサービスを提供する。
- 6 資質向上
 - ① 介護の基礎となる部分の定期的な見直しや再確認を繰り返し、介護技術や知識を深め、利用者が安全に安心して過ごせる質の高いサービスを提供する。
 - ② 施設内研修やデイ研修の他、リーダーが一日の流れを把握し的確な指示や指導を行い、職員一人ひとりが的確な判断や根拠ある考えを元に取り組む。

九十九園 京田辺市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

- 1 職員定数 4 名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
要介護者の意思を尊重し、介護度や生活環境に応じて介護計画を作成し、介護サービス事業者の紹介やサービス提供に関する連絡や調整を行う。
- 3 基本計画
利用者の問題点を把握し、介護保険制度における関係機関等との情報を共有し、住み慣れた自宅での生活が安全で安心して送れる支援に努める。
- 4 基本姿勢
利用者の状態変化の早期発見に努め、主治医や相談員をはじめ関係機関との連携を密に図り、居宅サービスの向上に繋げていく。
- 5 資質向上
 - ① 集団指導をはじめ施設内研修や職員会議に参加し、最新情報を職員間で共有することによって、個々のスキルアップを図っていく。
 - ② 利用者の状況変化や問題点を職員ミーティングにて検討し、スムーズに在宅サービスへ繋がるように、近隣の事業所との連携を図る。

在宅介護支援センター九十九園（窓口相談事業所）

- 1 職員定数 4 名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
京田辺市包括支援センターからの委託を受け、地域の福祉サービスの提案や支援を行い、在宅生活をされている高齢者の窓口相談所として活動する。
- 3 基本計画
地域のインフォーマルサービスの活用を活かし、住み慣れた自宅での生活が安全に行えるように、地域福祉サービスの提案を行っていく。
- 3 基本姿勢
地域包括支援センターとの連携を図り、介護保険申請手続きや介護保険外で利用できる地域資源を活用したサービス等の提案を行う。
- 4 資質向上
 - ① 高齢者世帯や独居生活における利用者の心身の状況を踏まえた在宅サービスの紹介や相談援助などの支援に努める。
 - ② 職員ミーティングや地域ケア会議で、インフォーマルサービス等の情報を共有し、利用者に沿った在宅サービスが続けられるような支援を行う。

ヘルパーステーション 九十九園（訪問介護）

- 1 職員定数 4 名 管理者、サービス提供責任者、訪問介護員
- 2 事業運営
利用者が出来る限り、在宅で安心して自立した日常生活が送れるよう、日々の状態変化を把握し、サービス提供が行えるように努める。
- 3 基本計画
利用者の特徴に応じた様々なケースに臨機応変に対応できるよう、サービスの特性と形態を理解して、専門職としての責任を持って行動をする。
- 4 基本姿勢
日常業務におけるサービスの中でも、利用者と密に関わることで日々の状態を把握し、思いやりをもち相手の立場に立ってケアが行えるように努める。
- 5 資質向上
 - ① 利用者の日々更新される情報を職員間で共有し、緊急時でも冷静に対応できるように、職員一人ひとりのスキルアップを図る。
 - ② 自分に足りない新しい知識や技術の意識を高める為に、最新の知識を学習する研修や勉強会等を通じて、自分に合った学びを習得する。

本 部

- 1 職員定数 4 名 施設長、事務職員
- 2 事業運営
行政改革や介護保険制度の改正による社会情勢の傾向を見極め、規程やマニュアル等の改訂に迅速に対応し、適正な事業運営に努める。
- 3 基本計画
物価高騰による月々の経費の削減や経年劣化による設備更新を定期的に見直し、助成金等の有効活用を利用した中長期的な経営に努める。
- 4 基本姿勢
デジタル化に対する情報や知識を習得して業務の効率化に繋げ、各部署との情報共有を図り、集約できるものや削減ができる部分は省いていく。
- 5 資質向上
 - ① インターネットの活用や関係機関等からの情報をいち早く集約し、スムーズに作業を行い、個々のスキルアップや自信に繋げる。
 - ② 日々行っている業務内容を理解し、突発的な場面でも自分で考え答えを出せるスキルを身に付け、業務に支障を来さないように努める。

令和7年度事業方針

部署	現状と課題	新年度方針	取 組
特養 ショート	① 業務が先行しており、意味を理解しないままケアを行う場面も多く、決められた事指示された事はできているが、臨機応変な対応が求められる場面で対応がうまくできていない。業務の中で、声かけや言動に丁寧さが欠けており、利用者主体の考え方、対応についても職員間で差が大きい。 ② 日々のレクリエーションは定着しているが、内容がマンネリ化しており、職員自身が考え、利用者を楽しんでもらおうという意識が職員間でバラつきがある。レクリエーション以外での散歩等の余暇活動の提供が進んでおらず、行事や起案についても内容がマンネリ化しており、職員個々の意識にバラつきがある。 ③ 認知症の進行による失認や失行、加齢による摂食嚥下能力の低下がみられ食事摂取量の確保が難しい方が増えている。	① 職員一人ひとりが責任を持って、情報共有を行い、利用者のケアを行っていく事で臨機応変な対応で慌てず判断することができるように、利用者主体の考え方を培い丁寧な対応を継続し行っていく。 ② 施設生活の中でも、日常的に楽しみを感じたり、気分転換ができるような活動や起案行事等で、利用者の状況に応じて楽しめる内容で企画し、年間を通じて継続できるように実施していく。 ③ 多職種での情報共有を行い、安全で食べやすい食事形態を選出し、食事摂取量の確保を図る。	① 日々のOJTを意識し対応した事への振り返りを行う習慣をもち、自分が行った介護について根拠を持った介護が実践できるように、助言や指導を日常的に実施する。基本的な接遇や介護に関する知識習得、人材育成のための施設内研修や、多職種間での勉強会を計画的に実施し、繰り返し学ぶ機会をつくる。 ② 他職種の職員が、利用者と関わりを持つ時間を増やし、行事ばかりではなく空いた時間にも利用者との関わりやコミュニケーションを図り、短時間でも楽しみの時間を持ってもらえるように日常の業務の中で助言や指導を行っていく。起案において担当者のみで進めるのではなく他の職員も当事者意識を持って、利用者の状態に応じて楽しめる企画や立案を進めていく。 ③ 食欲のない時は何が食べたいのか、日々のコミュニケーションを大切にし、その人らしく過ごせる環境作りに努める。
ケア	① 高齢に伴い、ADLの低下が著明であり、QOLの維持が困難になってきている。 ② 性格の不一致や、認知、精神面による理解力の低下や思わぬ行動による他者への不信感を抱くことで、トラブルを招く可能性がある。	① 介護サービス利用への提案を継続しつつ、日々の生活での状態変化に伴う助言を行い、意識、意欲を持って生活出来るように支援する。 ② 入居者同士の交友関係を把握し、トラブルになったり、なりそうな入居者同士の接触などを未然に回避して、心穏やかな生活が送れるよう努める。	① 入居者の状態や気持ちを汲み取りながら、家族への相談や協力を仰ぎ、介護支援専門員を通じて多職種との連携を図り、入居者が意欲的な生活を送れるようにする。 ② 入居者との関わりにより日々の観察や入居者同士の相性などを見極め、トラブルの際は職員に相談し、迅速に対応する事で、大きなトラブルへ発展しないよう未然に防ぐ。
デイ	① 一日の流れを維持し、利用者が参加したくなる工夫をしながら「身体の活動」や「頭の活動」をバランスよく取り入れメリハリのあるサービスになるよう努めているが、利用者の増加に伴う時間配分などが追いついていない。現状に合った活動内容の工夫が不十分で、結局マンネリ化している部分が出てきている。 ② 職員間の声かけは定着しているが、一対一の対応時の注意不足による事故も発生しており、安全に配慮した優先順位の考え方や声かけなど、先を予測した対応が出来ていない部分がある。高齢者の心身状態に応じた介護ができるよう、知識や技術を高めて、よりの確な判断や根拠ある考えのもと、職員が共通 認識を持って、習慣となるよう取り組んで行く必要がある。	① 基本的なサービスを軸に、利用者のニーズに応じた流れを考え、現体制で安全に実施できる活動内容である事を前提に、可能な事には積極的に取り組み、出来ている事に関しても改善点を模索し、レクリエーションや行事を通じて職員がゆとりを持って利用者に関わり、他者交流の活性化を図ることで利用者の満足度を高める。 ② 介護の基礎となる部分の定期的な見直しや再確認を繰り返し、優先順位を考えた行動が出来るように介護技術や知識を深め、利用者が安全に安心して過ごせる質の高いサービスを提供する。	① 時間を有効活用し、少しでも職員が利用者との関わりが持てるよう、業務体制を整え時間を捻出する。日々の情報収集を継続し、利用者の興味や意欲増進に繋がる活動が提供できるように、ミーティング等での意見交換や情報共有を図りながら状況に応じた改善を繰り返し職員も利用者と共に楽しみ作りができるよう取り組んで行く。 ② 各自の知識や技術の習得は勿論、施設内研修やデイ研修などを通じて介護知識を増やし安定したサービスが提供できるよう取り組んで行く。また、日々の指導ではリーダーが役割を自覚することで、一日の流れを把握しながら的確な指示や指導を行い、常に職員一人ひとりが「根拠ある介護」が出来るように指導体制を確立する。
ヘル	① 職員の知識が乏しく判断能力に欠ける。 ② 自身の健康管理や感情のコントロールが乏しい。	① 正しい判断をして、質の高いサービスを提供する。 ② 規則正しい生活をして体調管理を行い、健康の保持増進に努める。	① 密に関わることで利用者の状態を把握し、思いやりを持ち相手の立場に立ってケアを行う。 ② 自身の健康状態にも気を配り、利用者にうつさない最低限のマナーを守る。
支援	① 高齢世帯や独居生活が増え、高齢のため理解力の低下が進み、利用者の問題点が浮き上がりにくなり、スムーズに在宅サービスへ繋がらず、安心して自宅で生活が出来ないケースが増えてきた。 ② 介護保険制度だけでは、自宅での生活が難しくなり、施設入所に移行するケースが増えている。	① 利用者の状態変化の早期発見に努め、病状等を把握して理解し、安全に安心して自宅での生活が続けられるように援助を行っていく。 ② インフォーマルサービスの活用を活かしながら、住み慣れた自宅での生活が安全に行えるように援助を行っていく。	① 関係機関等との情報を共有しながら、利用者の問題点を把握し、安心して生活が送れるように支援を行っていく。 ② 職員ミーティングや地域ケア会議でインフォーマルサービス等の情報を共有し、利用者に沿った在宅サービスが続けられるような支援を行っていく。
事務	① あらゆる分野で電子化が進み、これまでのやり方と異なることが多い。 ② 多方面にわたる物価高騰により経費が多く発生している。	① デジタル化に対する情報や知識を習得し、業務の効率化に繋げる。 ② 無駄な作業や業務をなくし、余分な経費を削減できるよう努める。	① インターネットや業者等からの情報を活用し、スムーズに作業が行えるようにする。 ② 各部署との情報共有を行い、集約できるものや削減できる部分は省いていく。